

# 関西学生サッカーリーグにおける得点の特徴

西村 勇太(競技スポーツ学科 コーチングコース)

指導教員 山田 庸

キーワード：シュート，個人，グループ，パターン

## 1. 緒言

サッカーにおいて日本は何年もの間、得点力不足が問題視されてきた。世界との差は少しずつ縮まってはいるものの、システムや戦術、特に守備戦術が発展した現代サッカーで得点を奪うことは容易ではない。ワールドカップにおける総得点数も 2010 年大会まで 3 大会連続で減少傾向にあり、2010 大会優勝のスペインも歴代優勝国の中で最も少ない総得点数であった (内野, 2010)。

守備を破る一つの方法として、個人の突破が考えられる。世界のビッグクラブにはメッシ、ロナウドらの絶対的なエースがいる。もう一つの方法として、グループによる突破が考えられる。ワールドカップ 2014 優勝のドイツは、個の能力だけでなくそれぞれの選手が流動的に動くことによってグループとして守備を崩す攻撃を見せた。

大学サッカー界は、リーグ戦を通じて毎年 J リーグへ入団するストライカーを輩出する育成の役割を担ってきた。大学サッカーにおける攻撃の傾向はスカウトに有益であるとともに日本代表の強化にもつながる。しかし、その大学サッカーにおける得点の傾向は検証されていない。

そこで本研究では、主要大学リーグである関西学生サッカーリーグの試合を対象に、その得点の特徴を明らかにすることを目的とする。

## 2. 研究方法

対象は、関西学生サッカーリーグ 1 部前期

の 214 ゴールとする。

試合 VTR から、プレーの種類、ボールを受けた位置、得点者の動きだし、シュートした部位、シュートまでのタッチ数、シュートを放った場所を集計し得点の特徴を明らかにする。

## 3. 結果

図 1 はシュートを放った場所を示している。86%がペナルティエリア内から放たれていた。

## 4. 結論

- ①オープンプレーからの得点の方が多い。
- ②足元でボールを受けるプレー数とスペースでボールを受けるプレー数は同等である。
- ③得点者がペナルティエリア内でボールを受けたプレーが非常に多い。
- ④ペナルティエリア内でシュートを放ったプレーが非常に多い。
- ⑤ワンタッチでシュートを打つプレーが全体の 3 分の 2 を占める。
- ⑥シュート部位は頭によるシュート数が多い。

引用・参考文献

内野貴志(2011) 現代サッカーにおける得点に関する一考察。びわこ成蹊スポーツ大学 2011 年度卒業論文集。

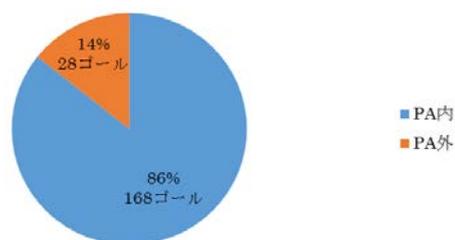


図 1 シュートを放った場所の分類(N=196)